

まいばら協働事業提案制度 平成28年度提案事業 審査結果

整理番号	自由提案・行政テーマ	事業名	事業内容	審査結果	講評	条件
	新規・継続	団体名 担当課				
1	行政テーマ (スポーツを通じたまちづくり)	マイクリング・プロジェクト	スポーツを通じたまちづくりを進めるため、誰でも取り組めるサイクリングに焦点を当て、米原らしいサイクリングスタイルをマイクリングと名付けて自転車生活を楽しむ文化を醸成する。観光資源を線で結ぶイベントの開催やサイクリングコースの作成を行う。H29年度米原サイクルステーションとの連携など多方面からの来訪を目指す活動と市内向けに親子で楽しめるような活動を目指す。	採択	3年間でここまで発展・展開されたことは素晴らしいです。 組織として成長するためにも活動を振り返って、市と継続的に協働する部分と団体の自主活動を整理してください。 継続運営のためにも自主財源の確保に努めてください。 また、可能であれば自転車利用者の増加に対応するためコース沿線の地元理解や環境整備に努めてください。	---
	継続3年目	マイクリング・プロジェクト チーム				
2	自由提案	ゆっくりマルシェ	米原ならではの強みを活かし、持続可能なライフスタイルの素晴らしさに気付く機会の場を作るため、市民同士の交流拠点であるルッチプラザにおいて、定期的にマルシェを開催し、市民の環境志向、健康志向の高まり、市民ネットワークの向上を目指す。H29年度は環境フォーラムの他にスローシティ認証実現の可能性を探る。	採択	ゆっくりという団体のメッセージ性の発信力を高めるためにも、マルシェを通じた交流などの取組を大切にしてください。 また継続していくために自主財源の確保への工夫を期待します。 米原らしさを発信するため、スローガンとしてスローシティへの取組を掲げるのであれば、そのプロセスと行政の役割が重要になりますので、協働して取り組んでください。	---
	継続2年目	YUKKURI米原				
3	行政テーマ (里山の集落共同管理の仕組みづくり)	里山の持続可能な地域経営プロジェクト	所有者も細分化され、管理がされない里山が獣害により荒廃していく状況を打開するために、自伐型林業により間伐材や広葉樹林を活用し、集落で山を管理する集落営林制度の構築や循環の仕組みなど持続可能な6次産業モデルをめざす。	採択	全国的な喫緊の課題に取り組むモデルとして期待しています。行政のかかわりはもちろん、大学などとの協働の広がりを検討するといいいのではないかと思います。 事業の継続性や市全体に広がるような汎用性を考えて実践してください。 団体は様々な補助金を受けていますので、協働事業の予算で実践する事業との区別を明確に実施してください。	---
	新規	東草野まちづくり懇話会				
4	自由提案	農家×料理人の米原レストラン	農業という職業や米原の農産物との魅力を市外に発信し、米原での就農者の増加や新規就農者の販路拡大への結びつきを狙って農家と料理人がコラボレーションしたレストランを開催する。農家や料理人を主役に新しい米原ブランドとして農家や飲食店を盛り上げていく計画。	採択	農産物のPRにつながる魅力的な取組です。新規就農者の増加という目的を達成するため、担い手育成に向け担当課とともに次年度以降の展開に工夫をしてください。 今後の展開に期待しています。	---
	新規	米原レストラン プロジェクト				

まいばら協働事業提案制度 平成28年度提案事業 審査結果

整理番号	自由提案・行政テーマ	事業名	事業内容	審査結果	講評	条件
	新規・継続	団体名 担当課				
5	自由提案	地場産材を使った木箱型生ゴミ処理器普及事業	生ごみを焼却処分せずに木箱コンポストの中の黒土(バクテリア)で堆肥化することで資源活用やゴミの減量など環境負荷の削減を目指す。 木の駅に集まった原木を用いてワークショップ形式で使用者自身が作成。また、高齢者のゴミ捨て労力の軽減やたい肥の利用による菜園などの生きがいづくりにつなげる。	採択	コミュニティビジネスとして継続できるようにサイズや堆肥の品質改良など商品開発を積極的に行ってください。 また、高齢者だけでなく、市街地の若い家族が環境問題に関心を持てるような取組や設置した家庭が継続利用できるようなサポートも検討してください。 これからの展開に期待します。	---
		木の駅いぶき実行委員会				
	新規	環境保全課				
6	自由提案	ITをつかったみんなでささえろく(地域福祉)のコミュニティづくり	地域の互助力×ITで安心な暮らしを実現するモデル事業。 滋賀大学との連携による高齢者世帯へのアンケート調査を行い、地域コミュニティの今後を思考する。また、高齢者宅TVに「見守りユニット」を設置し、体操やゲーム、地域のお知らせを配信。TVを介して双方向のコミュニケーションを行い、地域とのつながりを深める。また、その得た情報をデータベース化して介護予防や早期発見につなげる。	条件付採択	ITを使ってデータ化することやその実証実験はこれからの少子高齢化を考えると重要ですが、サンプル数やモニター期間が短すぎるため、お茶の間事業への参加拡大に直結するような効果が見込めるのか疑問に思います。 担い手不足が目下の課題です。そのため、ITによるデータ分析を実施することにより団体としての体制強化や人材育成につながり、それが地域コミュニティの活性化となるよう工夫してください。	以下の2点について採択の条件とします。事業企画書および収支計画書を修正してください。 ・アンケート調査は実施せず、市が平成28年度に実施する日常生活支援ニーズ調査を用いたデータ分析を行うこと。 ・ITデータ分析を活かし、人材育成や後継者育成につなげること。
		河内区福祉委員会				
	新規	くらし支援課				
7	行政テーマ(まちづくりコーディネーター事業)	米原まちづくり会議	すでにまちにあるモノや人の価値に注目してみんなで手入れしつなぎ合わせることで、市民側からの協働の広がりを目指した取組。蔵書を提供してもらい、市内の店舗等に本箱として設置し、それを巡回させることでまちづくりの思想やスキルを持った人材の考えを広め、顕在化する。また、その人材と実際に会おう場やまちの課題解決に取り組むための意見交換の場をつくり、人と人、人と行政をつなげていく。	採択	“日常からはじめる協働”として斬新さがあり、提案者のまちづくり経験を生かした事業となっています。 実施する上であらかじめ団体と行政の役割分担を明確にするとともに、本の管理のルールを定めてください。 また、設置管理者がファシリテーターやコーディネーターになり、まちづくりの担い手が育成されるような事業展開を期待します。	---
		ルッチまちづくりネット				
	新規	政策推進課				